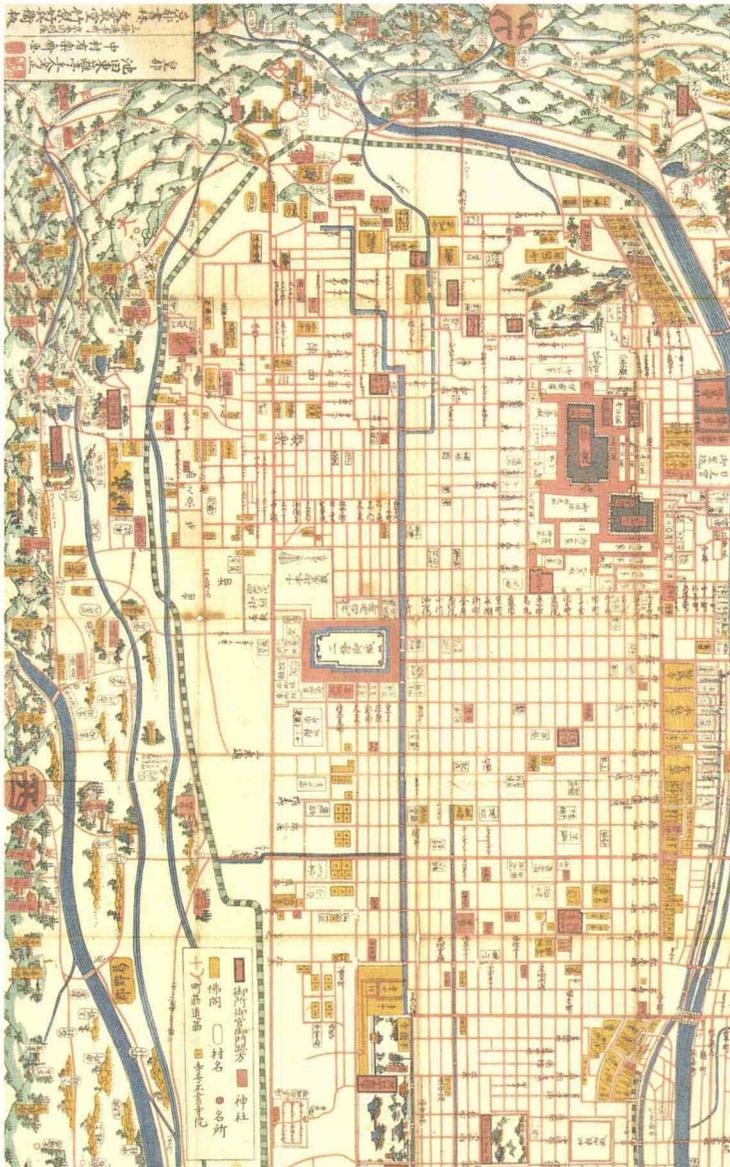


京大広報

No. 463

京都大学広報委員会



天保改正新增細見京絵図大全 天保五年(1834)
 近世京都の書肆 竹原好兵衛板行の京都の木版刷り町絵図
 —関連記事本文740ページ—

目次

<大学の動き>
 トロント大学との
 合同セミナーの開催……… 735

<資料>
 平成5年度教育研究学内
 特別経費による研究課題…… 736
 平成6年京都大学文学部
 博物館春季企画展の開催…… 740

<紹介>
 医学部分子遺伝学教室……… 741
 訃報……… 742
 日誌……… 743

<随想>
 野帳
 名誉教授 伊谷純一郎…… 744

<コラム>
 外国での入院生活の体験から
 阿部光幸…… 745

<大学の動き>

トロント大学との合同セミナーの開催

本学とトロント大学との合同セミナーが次のとおり御車会館において開催された。

このセミナーは、本学とトロント大学との学術交流に関する一般的覚書が締結された際の両大学の合意に基づき、その実施について国際交流委員会等で検討され、第1回として本学において開催されたものである。

セミナーでは、学内外の研究者・大学院学生延べ約120人が参加し、川又良也同セミナー実行委員会代表（法学研究科教授）が総合司会を行い、はじめに西島安則名誉教授の挨拶があった後、各セッションにおいてトロント大学教授の講演及び参加者との討論が予定の時間を超過して熱心に行われた。

KYOTO-TORONTO Symposium

—知られざる隣国カナダの理解に向けて—

2月15日（火）

Session I Political Science

“Crisis of Confidence: Citizens and Government in North America”

講師 Robert C. Vipond 教授

司会 新川敏光教授（新潟大学）

Session II Law

“The Judicial System and the Power of Judicial Review in Canadian Constitutional Law”

講師 Robert J. Sharpe 教授

司会 佐々木雅寿助教授（大阪市立大学）

2月16日（水）

Session III Economics

“Canada’s Industrial Relations and Human Resource Practices: Similarities and Differences from the United States”

講師 Noah M. Meltz 教授

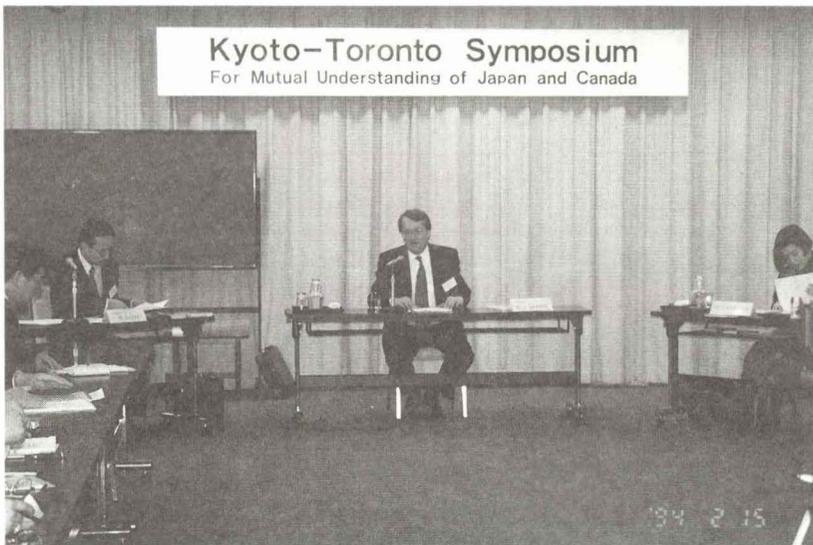
司会 菊池光造教授（京都大学）

Session IV Urban Geography

“The Economic Context of Restructuring in the Toronto Region: Sources of change and the Limits to Local Action”

講師 Meric S. Gertler 教授

司会 成田孝三教授（京都大学）



<資料>

平成5年度教育研究学内特別経費による研究課題

本年度の教育研究学内特別経費による研究課題及び代表者等は、次のとおりである。

1. プロジェクト研究

研 究 課 題	代表者所属・職・氏名	参加者所属部局
総合人間学部における全学共通科目にかかわる自己点検・評価	総合人間学部 学部長 児嶋 眞平	総合人間
人為活動が都市周辺水域における生体必須元素の動態ならびに生態系変化に与える影響	総合人間学部 助教授 杉山 雅人	総合人間
LL システム	総合人間学部 学部長 児嶋 眞平	—
哲学・宗教・芸術—その価値をめぐる問題	文 学 部 教 授 佐々木丞平	総合人間・文・人文研
京都大学所蔵刊行都市図の基礎的研究	文 学 部 教 授 應地 利明	文・人間環境・人文研・防災研
大学における「教養教育」(高度一般教育)の創出	教育学部 教 授 岡田 渥美	総合人間・文・教育・法・経済・理・医・薬・工・農・東南ア・人文研
大学教授法の実践的研究	教育学部 教 授 皇 紀夫	教育
京都大学学生・卒業生のキャリア意識と京都大学の職業教育	教育学部 教 授 竹内 洋	総合人間・文・教育・法・経済
「人権保障手続法」理論の構築	法 学 部 助教授 土井 真一	法
政治学の研究教育の国際化に関する基礎的研究	法 学 部 教 授 木村 雅昭	法・東南ア・人文研
大学院・学部における経済学・経営学の教育改善のための研究	経済学部 学部長 浅沼 万里	経済・経済研
複雑な内部自由度を有する体系における相転移・パターン現象の研究	理 学 部 教 授 小貫 明	理
地質学関係の標本管理と情報システム整備のための基礎研究	理 学 部 教 授 瀬戸口烈司	総合人間・理・人間環境・霊長研
医学生理学の実験・観察型教育プロジェクト	医 学 部 教 授 野間 昭典	医
分子組織学教育研究のための基盤整備	医 学 部 教 授 西川 伸一	医
大学間画像情報ネットワークによる教育・研究の高度化—京大～阪大ボーダレス学術ネットワークプロジェクト—	病 院 教 授 高橋 隆	医・病院・工
注射薬供給管理(薬剤の患者別セット・定数配置)設備	病 院 薬剤部長 乾 賢一	—
病院運営改善のための実態調査実施経費	病 院 病院長 吉田 修	病院
オリゴヌクレオチド下の医薬品応用への基礎的研究	薬 学 部 教 授 伊藤 信行	薬
工学部学生の受講科目選択におけるシラバスの効果的活用に関する研究	工 学 部 教 授 布川 昊	工
音声科学の総合的研究	工 学 部 教 授 堂下 修司	文・医・工・人間環境・留学生セ
画像処理技術の導入による生物学実習と研究の効率化と高度化	農 学 部 教 授 古澤 巖	農
農場における研究教育と建築施設計画に関する調査—未来農業・農学への展望—	農 場 農場長 草薙 得一	工・農・農場
非局所的な制約がある系でのゆらぎのパターンと緩和現象	人間・環境学研究科 助教授 宮下 精二	総合人間・工・人間環境
人間・環境学研究科の学問体系と教育・研究環境からみた研究科将来構想	人間・環境学研究科 教 授 松本 澄	人間環境
³⁵ S、 ¹²⁵ Iを含む動物性アイソトープ廃棄物の乾留法の開発	放射性同位元素総合センター 教 授 栗原 紀夫	理・放同セ

研 究 課 題	代 表 者 所 属・職・氏 名	参 加 者 所 属 部 局
ネットワークを活用した遠隔講義システムに関する調査研究	情報処理教育センター センター長 矢島 脩三	工・情報セ
アフリカ地域研究情報資料の統合と活用：コンピュータ・ネットワーク化による研究成果の公開促進と大学院教育への活用	アフリカ地域研究センター センター長 田中 二郎	アフ研
学部学生も対象とした、遺伝子の単離、塩基配列決定などの遺伝子工学基礎実習課程構築のための基本データ収集	遺伝子実験施設 教 授 清水 章	理・医・遺伝子
医学系教官と工学系教官による医療工学の相互教育と共通カリキュラムの作成	生体医療工学研究センター センター長 谷 嘉明	医・工・生体・化研
通信衛星を用いた遠隔地への大量デジタルデータ伝送中継システムの研究	超高層電波研究センター 教 授 松本 紘	工・超高層
生物による資源アーキテクチャー形成—生物多様性の維持に果たす役割に注目して—	生態学研究センター 助教授 甲山 隆司	総合人間・理・生態研
京都大学統合情報通信システム (KUINS)の将来構想のための調査・研究	学術情報システム整備委員会・技術専門委員会委員長 工 学 部 教 授 池田 克夫	病院・工・情報・大型・超高層
コメディカルの病原微生物感染や職業アレルギーに関する縦断的調査研究	医療技術短期大学部 教 授 熊谷 俊一	医・ウイ研・医短大
花成ホルモンを求めて	化学研究所 教 授 富士 薫	農・化研
人文科学の研究組織の将来像	人文科学研究所 所 長 阪上 孝	人文研
睡眠時無呼吸症候群症例における血圧、ANP、BNP の変化	胸部疾患研究所 教 授 久野 健志	医・胸部研
総合エネルギー科学の教育研究のあり方	原子エネルギー研究所 所 長 高橋 幹二	経済・理・工・農・ヘリオ・原エネ・経済研・原子炉
木質建築材の経年的変化に関する研究	木質科学研究所 教 授 伊東 隆夫	木研
哺乳類の摂食促進に関する研究	食糧科学研究所 教 授 森 友彦	農・食研・霊長研
桜島・始良カルデラ 3次元地下構造に関する基礎的研究	防災研究所 教 授 加茂 幸介	防災研
ライフサイエンスの今後のあり方に関する調査研究	ウイルス研究所 教 授 畑中 正一	ウイ研・理・医・薬・農・胸部研・放生研
地域経済の環境と発展	経済研究所 助教授 岩本 康志	経済・経済研
生命過程における完全なる不完全性原理の探求	基礎物理学研究所 助教授 村瀬 雅俊	基礎研
ネットワーク上の並列計算環境の整備	数理解析研究所 助教授 室田 一雄	数研
医学生物学研究のための中性子と γ 線線量測定システムの確立及び照射線量と照射効果の評価精度向上	原子炉実験所 教 授 小野 公二	病院・放生研・原子炉
認知機能解明への多元的アプローチ	霊長類研究所 教 授 久保田 競	総合人間・文・理・医・ウイ研・霊長研
維新資料の調査	図 書 館 館 長 朝尾 直弘	文・人文研・図
入試問題検討のための教科書の講入	学 生 部 学生部長 万波 通彦	学生部
簡便な全身持久力測定方法の開発	体育指導センター 助教授 井街 悠	総合人間・医・体育指導セ
大学院レベルの外国人留学生のための専門用語を中心とした自習用教材の開発	留学生センター 教 授 岡川 長郎	留学生セ
京都大学施設長期計画策定の調査研究	施 設 部 工 学 部 教 授 川崎 清	施設部
21世紀の京都大学のあり方についての調査研究	企画小委員会委員長 工 学 部 教 授 中川 博次	将来構想検討委員会企画小委員会
京都大学におけるキャンパス問題についての調査研究	庶 務 部 庶務部長 宮崎 治彦	庶務部・経理部・施設部・学生部

2. 学術研究奨励金

【人文・社会】系

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
精神衛生に関する日米比較研究	総合人間学部 助教授 北山 忍
中国新安江流域の文化と言語	文 学 部 助教授 平田 昌司
現代社会における憲法と私法の交錯	法 学 部 助教授 山本 敬三
森林資源の環境価値評価と社会的最適森林計画	農 学 部 助 手 赤尾 健一

【医学・生物】系

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
セルフプライミング・イントロンの触媒作用に関する研究	理 学 部 助 手 白石 英秋
大脳皮質の内在性神経回路網を形態学的に解析する	医 学 部 助教授 金子 武嗣
シグナルクエンストラップ法を用いた細胞間シグナル伝達物質のクローニング	医 学 部 講 師 仲野 徹
遺伝子トラップ (Gene Trap) 法を用いた新しい形態形成遺伝子の検索とその機能解析	医 学 部 助教授 森 千里
Helix-Loop-Helix 型転写調節因子 HFS-1 の神経分化における役割	医 学 部 助 手 石橋 誠
下垂体性糖蛋白ホルモン (TSH, LH, FSH) 受容体の構造と機能に関する研究	医学部附属病院 助 手 小杉 真司
ナトリウム利尿ペプチドファミリーの臨床的意義に関する分子生物学的研究	医学部附属病院 助 手 伊藤 裕
オピオイド受容体における選択的リガンド結合部位の同定	医学部附属病院 助 手 福田 和彦
色素性乾皮症 A 群の遺伝子異常と病像解析	医学部附属病院 助 手 錦織千佳子
ムラサキ培養細胞における二次代謝の光制御に関する分子生物学的研究	薬 学 部 助 手 矢崎 一史
抗エイズ薬への応用を目的としたタキプレシン誘導体の合成研究	薬 学 部 助 手 玉村 啓和
植物ホルモン・インドール酢酸合成酵素および遺伝子に関する研究	農 学 部 助 手 小林 達彦
Bromovirus の宿主特異性に関する研究	農 学 部 助 手 三瀬 和之
分子生物学的手法を用いた偏性低栄養細菌の群集構造と遷移の解析	農 学 部 助 手 吉永 郁
造血因子エリスロポエチンの神経系細胞での作用機作	農 学 部 助 手 氷尾 雅哉
筋肉及び脂肪細胞分化の制御遺伝子の発現を指標とした脂肪交雑成機構に関する研究	農 学 部 助 手 谷口 幸雄
抗体触媒の実用的機能改変に関する研究—生成物阻害の機構と回避のデザイン	化学研究所 助 手 平竹 潤
親和標識したグルタチオンの合成酵素の X 線結晶構造解析	化学研究所 助 手 加藤 博章
亜鉛フィンガー転写因子 Spl による特異的 DNA 塩基認識機構の解析	化学研究所 助 手 桑原 淳
担子菌のリグニン分解系の分子生物学的解析と形質転換系の開発	木質科学研究所 助 手 本田 与一
X 線結晶構造解析による β -アミラーゼ反応機構の解明	食糧科学研究所 助教授 三上 文三
大腸菌膜透過因子 Sec Y 突然変異蛋白質の生化学的解析	ウイルス研究所 助 手 吉久 徹
MAP キナーゼカスケードの活性化と機能	ウイルス研究所 助 手 後藤由季子

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
老化に伴う認知機能障害の神経科学的解明	霊長類研究所 助 手 中村 克樹
前頭前野における作業記憶の神経機構とその物質的基礎	霊長類研究所 助 手 澤口 俊之

【理学・工学】系

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
次期大型加速器での量子トンネル効果の検証	総合人間学部 助教授 青山 秀明
宇宙における位相欠陥からの重力波放出	総合人間学部 助教授 石原 秀樹
力学系の相空間構造の複雑さ	総合人間学部 助教授 武末 真二
核と葉緑体遺伝子系間のシグナル伝達の分子機構	大学院人間・環境学研究科 助 手 権名 隆
ダークマターは本当に必要か	理 学 部 助 手 太田 耕司
ブラックホール天体における 1/f ゆらぎの発生機構	理 学 部 助 手 嶺重 慎
計算機実験に基づく溶液中タンパク質の動的構造解析	理 学 部 助 手 北尾 彰朗
岩石のレオロジーを考慮したマントル内部での流体運動の研究	理 学 部 助 手 古川 善昭
MgGeO ₃ におけるオリピン→スピネル相転移速度に対する H ₂ O の影響	理 学 部 助 手 下林 典正
紫外域半導体レーザーの基礎研究	工 学 部 助教授 藤田 静雄
化学的誘導法による C ₆₀ 金属内包体の合成と物性	工 学 部 助教授 村上 正浩
分子サイズ・形状選択性を有する光触媒反応系の開発	工 学 部 助 手 大谷 文章
C ₆₀ 骨格をもつ新しい機能性材料の設計と合成	工 学 部 助 手 北川 敏一
超小角 X 線散乱法による高分子材料における巨視的構造と機能性との相関に関する研究	工 学 部 助 手 松岡 秀樹
多分子複合系における準安定状態の解明と生物の機能	工 学 部 助 手 水谷 義
宇宙の諸階層における構造の形態認識に関する研究	情報処理教育センター 助 手 伊藤 誠
MU レーダーを中心とする協同観測による電離層 E 領域沿磁力線不規則構造の研究	超高層電波研究センター 助 手 山本 衛
不斉記憶に基づく不斉導入の展開	化学研究所 助 手 川端 猛夫
液相法による光機能性金属超微粒子分散セラミック薄膜の合成	化学研究所 助 手 幸塚 広光
酵素反応を利用した光学活性な天然物の全合成	化学研究所 助 手 河合 靖
場の量子論における非摂動論的手法の開発と重力場の量子化	基礎物理学研究所 助 手 福岡 将文
超対称性理論におけるバリオン数揺らぎの生成と進化	基礎物理学研究所 助教授 横山 順一
超伝導格子振動状態のメスバウアー効果による研究	原子炉実験所 助 手 瀬戸 誠

3. 学術出版助成金

【医学・生物】系

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
バセドウ病の研究：その意義と将来性	医学部附属病院 助 手 赤水 尚史

平成6年京都大学文学部博物館 春季企画展の開催

本学文学部博物館では、下記のとおり春季企画展「三都の古地図—京・江戸・大坂—」を開催いたします。本学の教職員・学生は無料です（職員証又は学生証を呈示のこと）。

記

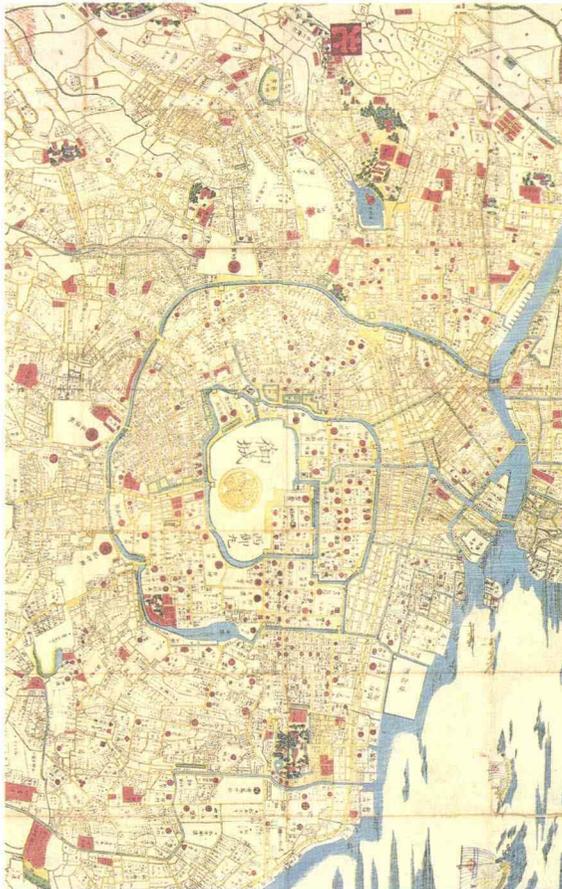
期 間 4月12日（火）～5月28日（土）
開館時間 火曜日～土曜日 9:30～16:30
（入館は閉館30分前まで、日・月・祝日は休館）
場 所 博物館 企画・総合展示室（1F・2F）

展示内容

企画展「三都の古地図—京・江戸・大坂—」

今回の企画展は、「三都の古地図」と題して、近世日本を代表する京・江戸・大坂の刊行都市図の展開をたどろうとするものです。

まず「京図」について、都市図刊行の先駆とも言うべき17世紀中ごろの京図を紹介し、その大成を主導した林吉永・竹原好兵衛という京の2大版元の手になる刊行図を展示します。ついで、洛中洛外の多彩な名所を盛り込んだ名所図絵的で多様な京図を展示すると共に、内裏図や平安京以来の京の復原・考証図も紹介します。



分間懷宝御江戸絵図 嘉永六年（1853）

近世江戸の書肆 須原屋茂兵衛板行の江戸の木版刷り町絵図

「江戸図」についても、まず17世紀における初期の刊行図を展示し、ついでその盛行の三大流をなした遠近道印・石川流宣・須原屋茂兵衛という作者・版元をたどります。さらにその攘夷期のさまざまな江戸図、並びに江戸図に最も特徴的な切絵図を展示します。

「大坂図」はまず、京の版元によって刊行が開始され、その京風の市街表現から、やがて播磨屋九兵衛など大坂の版元による大坂図の刊行へと展開しました。この流れを示すと共に古代浪速の推定・復原図をも展示します。

三都は、都市の起源も構造もそれぞれに異なっており、それを表現した都市図もまた、都市の個性と作者・版元並びに需要の志向によって極めて多様です。ヨーロッパの都市図とも比肩し得る、このような豊かな日本近世の都市図への理解を深めていただくことを期待します。

また、併設展として「聚楽第と御土居」をめぐる絵図・古文書類を展示し、豊臣秀吉の京都改造事業のあとをたどります。

なお、1階総合展示室では考古常設展示「日本古代文化の展開と東アジア」を行っています。

（文学部）

＜紹介＞

医学部分子遺伝学教室

本教室の発足は昭和60年にまで遡ることが出来るが、比較的新しい教室と言える。平成5年10月には新たに建設された分子医学研究棟への引越を行ったばかりである。教室のテーマは多岐にわたっており、それぞれに共通項を見つけるのが困難である。あえて共通のテーマを掲げるとすると、「発生過程における細胞増殖の調節」と言えるかもしれない。共通項はともかくとして、本教室を大きく3つのグループに分けることが出来る。

一つのグループは、血液細胞やリンパ球の初期分化の段階での細胞増殖調節機構を研究している。様々な細胞を試験管内で増殖させるという組織培養は、一種類の細胞のみを大量に得るためのもっとも重要な手段であるが、選んだ動物血清によって結果が左右される点などの非科学的側面を払拭できていない。本教室では、骨髄や胎児肝内に存在する未熟B細胞を増殖させるための技術の開発に努めた結果、これらの細胞を正常のまま維持することの出来る完全無血清培地を得た。無論、未熟Bリンパ球の増殖には二つの増殖因子の存在が必要で、現在はこの二つのシグナルがどのようにして細胞周期の維持につながっていくのかについて生化学的な研究を行っている。また、この培地を利用してこれまで困難とされていた全ての血液細胞を生産することが出来る造血幹細胞の

試験管内増殖条件の決定についてもチャレンジしている。

造血系の細胞は全て中胚葉起源の細胞であり、マウスの初期発生では卵黄嚢で最初に認められる。これと同時に、しかも同じ場所で血管も発生してくるが、この中胚葉から造血細胞、血管への分化のプロセスがもう一つのグループの研究テーマである。このグループも、マウス胎内での複雑なプロセスを組織培養という単純な系で再現することを主な手法としているが、分化を単一細胞レベルで研究するため、中胚葉、造血細胞、血管内皮細胞を生きたまま区別できるマーカーの開発を中心に行っている。この様に古典的発生学的手法のみならず、この分野の進展は分子遺伝学的手法の利用なしには進まない。我々も独自の実験系のなかで、中胚葉の誘導、それからの造血系及び血管内皮細胞の分化と続くプロセスに異常を示す突然変異マウスを積極的に利用しており、なぜ造血系と血管内皮の分化が卵黄嚢と言う特殊な環境で起こるのかについて明らかにしたいと考えている。

最後のグループは、色素細胞や生殖細胞の増殖について研究を行っている。これら細胞は発生過程で移動して最終目的地に到達する代表的な細胞で、この過程に関わる情報伝達経路を操作することで、写真1に示す様な体色の異常や不妊を自由に誘導することが出来る。このグループは、この様な発生初期のプロセスのみならず、成熟後のこれら組織の活性化についても、様々な手法を組み合わせ研究を続けている。例えば、卵巣での卵の成熟は全ての卵で起こるわけではなく、周期的に一部の卵でのみ起こる。この周期は、ホルモンのレベルの変化によって調節されていると考えられているが、最近の研究で周期性を決定する他の因子が存在することが明らかになってきた。このグループは、周期性の完全に狂った突然変異マウスの遺伝子解析を



写真1

色素細胞分化を、増殖因子受容体に対する抗体を胎児に投与することで操作する実験結果。胎生14日目に抗体を投与することで、様々な毛色のマウスを作製できる。

手がかりとして、周期性を決定している分子機構を明らかにするための研究を行っている。また、マウスの毛根内の色素細胞は、毛根の活性化に同調して増殖することで、毛にメラニン色素を供給しているが、毛根の活性化を調節している因子の研究もこのグループの研究対象である。最近、毛根の活性化と呼応して毛母内で標識遺伝子（写真2 黒く染まっている部位）を発現するトランスジェニックマウスを得たので、このマウスの毛根でこの遺伝子が発現させる様々な分子を明らかにすることで、毛根活性化の周期性を調節する分子機構に迫っている。

以上、本教室では分子遺伝学自体からはすこし離れた研究を行っているが、シドニー・ブレンナーの言を借りれば、「21世紀には全ての生物学者は分子遺伝学者である」ことから、教室の名前に捕われず今後も自由に研究を行っていきたい。

(医学部)



写真2 組織特異的に標識遺伝子が発現させることにより、その遺伝子調節を個体レベルで調べることが出来る。写真で黒く染まっている場所は、髭の毛根、外耳等である。

訃報

森 敬一郎 医学部講師

医学部外科学第二講座講師 森敬一郎 先生は、2月21日逝去された。享年46。

先生は、昭和48年京都大学医学部を卒業、田附興風会北野病院で臨床研究を終了した後、同57年本学大学院医学研究科博士課程単位修得退学、同59年医学博士の学位を得られた。医学部附属病院助手を経て、平成4年医学部外科学第二講座講師に就任された。

先生の専門は肝臓外科学であるが、研究は血管外科、凝固線溶系から出発し、傷創治療の本質にせまる業績を発表してきた。先生は、肝臓外科における血管外科の応用を担当し、従来切除不能とされてきた肝臓腫瘍の切除率の向上に貢献した。更に、4年前から開始した生体肝移植の主要メンバーの一人で、顕微鏡下で行う細い動脈の吻合は、移植分野では初めての試みで、国際的な評価を受けている。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(医学部)

西川 義正 名誉教授

本学名誉教授 西川義正 先生は、2月27日逝去された。享年80。

先生は、昭和11年東京帝国大学農学部を卒業後、農林省畜産試験場技官、同17年から農林省馬事研究所技官、同25年から農林省農業技術研究所技官を経て、同32年本学農学部教授に就任、同51年3月帯広畜産大学長に就任され、同51年4月京都大学名誉教授の称号を受けられた。京都大学農学部在職時の昭和49年4月から昭和51年3月まで附属牧場長として大学の管理運営に貢献された。

昭和56年12月日本学士院会員となられ、昭和59年3月帯広畜産大学長退官後は、富山女子短期大学長を務められた。

先生の専門分野は、家畜繁殖学であり、特にホルモン処理による家畜繁殖の生理学的研究、並びに精液の凍結保存技術の確立とその技術を基盤とした家畜人工授精の理論と応用に関する研究において、数多くの優れた研究成績を残された。主な著書に『家畜人工授精法』、『Studies on Reproduction in Horses—Singularity and Artificial Control in Reproductive Phenomena—』等がある。

先生は学界においても世界畜産学会会長、日本畜産学会会長、日本不妊学会副理事長、凍結精液研究会会長、家畜繁殖研究会理事等を歴任され、学界の発展並びに若手研究者の育成に寄与された。

これら一連の研究活動、学術上の貢献に対し、昭和31年に日本農学会賞、同39年に日本学士院賞を受賞され、昭和41年に紺綬褒賞、同50年にドイツ連邦共和国政府大功労十字勲章、同60年には勲二等旭日重光章を授与された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(農学部)

井 木 哲 夫 文 部 事 務 官

文部事務官 井本哲夫氏は、2月28日逝去された。享年46。

同氏は、昭和41年本学工学部に就職され、以後、農学部経理掛物品主任、人文科学研究会会計掛会計主任、アフリカ地域研究センター事務主任を歴任、この間27年余りの永きにわたり大学行政一筋に尽力された。昭和61年には、京都大学永年勤続者表彰(20年勤続)を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(アフリカ地域研究センター)

藤 原 元 典 名 誉 教 授

本学名誉教授 藤原元典 先生は、3月3日逝去された。享年78。

先生は昭和15年京都帝国大学医学部を卒業、医学部助手、助教授を経て、同34年教授に就任され、衛生学講座を担当、昭和54年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

この間昭和47年から同54年まで医学部附属動物実験施設長、同48年から同52年まで本学評議員を歴任され、大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は昭和54年から同61年まで京都府衛生公害研究所長を務められた。

先生は衛生学及び栄養学の領域において顕著な業績を挙げられた。特にビタミン B₁ に関する一連の研究は戦後における脚気撲滅運動の中で特筆されるべきものである。

一方、昭和48年から同54年まで日本衛生学会幹事長、昭和59年から同61年まで日本栄養・食糧学会会長としてそれぞれの学会の運営、発展に貢献された。また、京都府公害対策審議会会長、京都府エイズ対策専門委員会委員長、京都市建築審議会会長として地域の衛生行政の発展に尽力された。

これらの功績により昭和28年度日本ビタミン学会賞、同33年京都新聞文化賞、同34年日本学士院賞、同57年日本栄養・食糧学会功労賞、平成2年京都府文化賞特別功労賞を受賞され、さらに平成元年11月勲二等瑞宝章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(医学部)

日 誌

(1994年2月1日～2月28日)

2月1日	京都大学技術職員研修(第11回)(3日まで)	9日	国際交流会館委員会
2日	マレーシア マレーシア農科大学 Nayan Bin Ariffin 学長他3名来学、総長及び関係教官と懇談	15日	保健衛生委員会
8日	評議会	22日	後援会助成事業検討委員会
9日	国際交流委員会	25日～26日	入学者選抜学力試験(前期日程試験)

